

東京の島しょ地域のくらし、営業、命と健康を守るための要望書

東京の島しょ地域にとって、船が安全に着岸できる港が整備されることは、島民自身の交通はもちろん、観光など島の産業にとっても切実な課題となっています。今年の相次ぐ台風で、少なくない港が破損し、重大な被害が生じており、早急な改善が求められています。

また、島民が安心して医療を受けられる体制をつくること、子どもの教育環境を整えることも、切実な要求です。「島外医療の旅費がかかって大変。天気が悪いと何日も滞在を余儀なくされ、付き添いが同行すると費用がかさむ」「島内に高校がないので、子どもを高校に行かせるために、寮や住宅費、帰省のための交通費の負担が大きい」など、切実な声が寄せられています。

離島の生活を支える上で、東京都の支援は決定的です。都の大きな財政力を活用して島しょ支援の強化を強く求めます。

記

- 1、台風による栈橋の欠損の復旧をはじめ、港の改善をはかること。
 - ①利島の西側新栈橋の破損の復旧、被害の再発を防ぐために栈橋の幅員を拡張すること。
 - ②御蔵島の栈橋の欠損の改修とともに、照明設備の復旧を急ぐこと。
 - ③若郷漁港での東海汽船ジェットフォイル接岸に伴う仮設トイレの設置を急ぐこと。また野伏港待合所のトイレの全面改修とともに、新船客待合所を早期に建設すること。
 - ④式根島港船客待合所の台風被害の早期修理、冷暖房機設置、トイレの床タイルの張り替え、バリアフリー化を進めること。

- 2、島民の命と健康を守るため、医療費負担の補助、医療の充実を進めること。
 - ①高校生までの医療費を無料にするため、都としての支援を行うこと。
 - ②島外に通院する際の交通費等の補助を東京都として行うこと。
 - ③救急ヘリコプターの運行について、「生命に緊急を要しない」と診断されている場合であっても、著しい苦痛がある場合などに運行できるように基準を緩和すること。
 - ④島しょ医療においてかけがえのない役割を果たしている都立広尾病院の地方独立行政法人化の検討を中止し、都立直営で充実をはかること。

- 3、子どもの教育環境を充実すること。
 - ①学校体育館へのエアコン設置について、都として補助を行うこと。
 - ②利島で実現している給付制奨学金への支援を行うこと。
 - ③島内に高校がない離島出身の高校生の寮、住宅費、帰省のための交通費等の負担を軽減する助成を行うこと（現在は国庫補助により25000円支給）
 - ④都立特別支援学校の寄宿舎に入舎する子どもたちに、2週間ごとの規制を一律に求めないこと。生徒・保護者の交通費や宿泊費などの負担を軽減すること。

りくろ

以上